

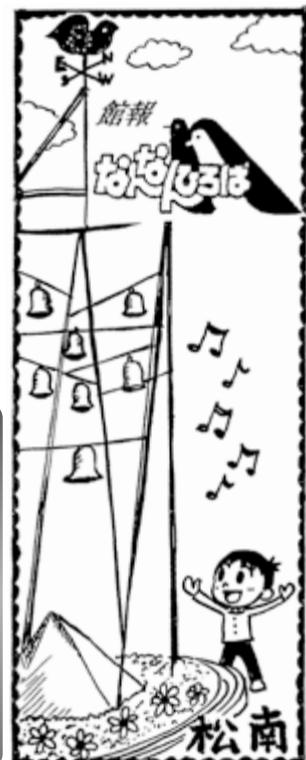
松南地区の地域づくり

松南地区では、町会と住民が一体となって4つの事業を展開しています。

これらの事業は毎年開催され、準備から町会役員や住民が携わる手作りの事業です。

事業を通じて松南地区の地域づくりにどのように関わっているのか?

ここからは事業に携わる皆さん の熱い想いを紹介しましょう。



9/6 なんぶ未来まつり



競技に参加すると景品に鉛筆やパンがもらえた。樂しかった。

今、同じような場所で「未来まつり」が行われている。まつりに来る子どもを見ているととても楽しそうだ。

役員として関われて良かったと思う。子どもたちが年をとつても、いつか松南地区で行われていた「未来まつり」を思い出してくれるだろうか。

私が子どもの頃、南部球場
という広場で毎年地域の運動
会が開かれていた。

「なんぶ未来まつり」

南松本2丁目町会長
古林数久

館に地域の方が集まります。個人競技や四つのグループに分かれての競技などを6ゲーム行い、最後に綱引きで終了です。競技ごとに景品をキヤッチして心地よい汗を流し、地域の方と話し合いながら楽しく笑いがおきた一日でした。

本年で健康まつり松南（小運動会）は第13回目を迎えました。松南地区は、市内で唯一神社仏閣のない地域です。地区内での集まりは、福祉ひろばでの「いきいき健康教室」、地区全体での「なんぶ未来まつり」しかありません。そんなことから始まりました「健康まつり松南」は、南部体育

本年で健康まつり松南（小
芳野町会長 吉田 廣志



「乾杯！」の発生のもと、天顔、笑顔でビールやお酒を酌み交わします。

「あれはどうなったの？」

「あの人は元気？」話が弾みます。

そのうちにカラオケ大会が

「**一氣寄りの場**」

11/29 南松本2丁目公民館

始まりました。
宴もだけなわとなり、日々
に「居酒屋町内公民館は楽し
いね」「またやろうよ」。
皆さんの声を聞いて、地域
の絆づくりに繋がっているも
のと思いました。

以上のように決して多彩とは言えませんが、この地区で1年間に開催されている行事の主なものです。

課題は全くないと言えば嘘になります。住民の方々が地元感を少しでも感じ、「気寄りの場」となつていただければと思います。工夫をこらして参加者を一人でも増やそうとして努力を重ねています。

毎月「広報」と一緒に地区からの「ご案内」の個別配布や回覧をお届けしていますので、是非見逃さないようにしてください。

(百瀬壽)

(百瀨壽)



11月26日、双葉町いきいきサロンは、松本大学の考房『ゆめ』の先生方を招き、貴重な昭和の映像を通して、松本の原風景を見つめました。

松本五十連隊、松本城の復元、はやしや屋上など商店街の賑わい、チンチン電車等々の映像に、コミュニティカフェ・マスターのコーヒーも添えられ、まさにサロンでした。

郷愁の傍ら、歴史や情景を通じ自分史や松本らしさを共有する機会ともなりました。学生には市民に根付いた旧町名も伝えていたことでした。こうした語り場が次世代と共感する機会に発展することを期待します。(白澤幸男)

『松本今昔』に浸る

松南地区のできごと 冬

1/11 三九郎(双葉町会)



▶開明小学校校庭

1/11 三九郎(宮田中・宮田西町会)



▶開明小学校校庭

1/10 三九郎(芳野町、南松本1丁目町会、2丁目町会)



▶芳野町公民館横空き地

12/18 イルミネーション点灯



▶今年も点灯しました

12/13 クリスマスコンサート(図書館)



▶楽しいコンサートでした

1/11 三九郎(双葉西・双葉南町会)



▶双葉西公民館横公園

昨年は春と秋が極端に短く、長い夏のなか猛烈な暑さが連日続きました。命の危険を知らせる熱中症警戒アラートが頻繁に出され、熱中症対策に追われる日々でした。そして秋の実りと同時に日本各地で熊が人里や市街地まで下りてきて、人身事故が発生しました。熊というと、今まで熊の遭遇に備えが必要になりました。熊と一緒にいる姿や「ブーさん」や「くまモン」など、可愛いイメージが先行していましたのは私だけでしょうか。気候変動が熊の生態へも影響を及ぼし、人間と接触せざるをえない状況になってしまったことはわかりません。人を恐れない気性の荒い熊ばかりではないと思いますが、里に下りない熊のこの冬のドングリは十分足りたのか案じます。これからも山登り、山菜採りに限らず、通学や農作業でも熊への危険に備えが必要です。温暖化が言われる中、私たちにふりかかる心配、不安の種は次から次へと変化していきます。次は何に備えが必要になるでしょうか。

(佐々木恒男)

今年は春と秋が極端に短く、長い夏のなか猛烈な暑さが連日続きました。命の危険を知らせる熱中症警戒アラートが頻繁に出され、熱中症対策に追われる日々でした。そして秋の実りと同時に日本各地で熊が人里や市街地まで下りてきて、人身事故が発生しました。熊と一緒にいる姿や「ブーさん」や「くまモン」など、可愛いイメージが先行していましたのは私だけでしょうか。気候変動が熊の生態へも影響を及ぼし、人間と接触せざるをえない状況になってしまったことはわかりません。人を恐れない気性の荒い熊ばかりではないと思いますが、里に下りない熊のこの冬のドングリは十分足りたのか案じます。これからも山登り、山菜採りに限らず、通学や農作業でも熊への危険に備えが必要です。温暖化が言われる中、私たちにふりかかる心配、不安の種は次から次へと変化していきます。次は何に備えが必要になるでしょうか。

ココロ松南